

2021

8 · 23

第1210号

週刊ビル経営

発行所 (株)ビル経営研究所
〒104-0061
東京都中央区銀座7-17-12 2F
TEL 03(3543)7421
FAX 03(3543)5839

発行人 垂澤清三
年間購読料 30,000円(税込)
KAMEOKA NEWS AGENCY CORPS
亀岡大邸阪材班グループ

化に合わせて使い方を変えられる汎用性の高さが一番のポイントです。倉庫の構造を応用し、レイアウトの変更がしやすい設計とすることで、ニーズの変化に対応することができます。

が持つメリットをうたっているかのようですが、住宅メーカーの文言です。ライフステージが移り、家族の形態が変化していくにつれて、必要な住まいの形も変わってきます。従来の戸建て住宅は大規模リフォームに大きなコストがかかることで、そうした際は住み替えか建て替え、あるいは部分的なリフォームという選択肢しかも、近は新しくビル建てついで、売りにいたしました。いう話、いわば家＝建築物は固定化された動かしがた

なく、最も賢いものが生き延びるのはない。唯一、「生き残る」は変化できる者である」という名言は、建物にも当てはまります。

リノベーションを進めてきた身としては、構造技術の進化によって大掛かりな改修を前提とした建物が実現されたことに感慨深いものがあります。それとともに、改めて倉庫のスケルトン構造は「最強だ」と感じました。

倉庫という建物の優秀さと優位性、可能性を確信しました。

と「汎用性」というキーワードが出てきます。「時代や使用者の変化に対応できる建物を構築するべき」ということなのですが、賃貸用の建物ではなおさらです。当社の提案する「マルチペーパス倉庫」はまさにこの汎用性に特化した建築のあり方を考えたもので、ニーズの変

いハードであり、その変更は前述のような選択肢か、あるいはソフト面における対応によってなされてきました。そもそも旧来の住宅では、ライフスタイルの変化による住まい方の変化などという概念自体、存在し得なかつたといつても過言ではありません。

この数十年で家族のあり方は大きく変化しました。家族の形は流動化し、より多様にな

第39回「汎用性は住宅でも」

ソーコに学ぶ ビル緯喜

イーソーコ総合研究所
代表取締役　出村 亜希子
奈良女子大学大学院修了後CM
会社を経て現職。一級建築士、
宅建士。「倉庫ドクター」とし
て建築面からオーナー支援に取
り組む。

